

¹¹C-SCH23390と¹¹C-racloprideを用いたPET検査を受けた皆様へ

量子科学技術研究開発機構では、ジストニア患者における脳内ドーパミンD1およびD2受容体結合能と臨床症状との関連に関する研究を行っております。

この研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる患者さんのお一人ずつに直接説明を行った上で同意をいただく代わりに、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

もし、詳しいことをお知りになりたい場合には、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で、より詳しい計画書や関連資料を閲覧いただくことができます。また、個人情報保護法に基づく開示・利用停止等の手続き等を希望される場合にはお申し出ください。

[研究課題名] ジストニア患者における脳内ドーパミンD1およびD2受容体結合能と臨床症状との関連に関する研究

[実施期間] 許可日 ~ 2022年3月31日

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 放射線医学総合研究所

[研究代表者] 脳機能イメージング研究部 島田 斉

[研究協力機関] 徳島大学病院 神経内科、武田総合病院、宇多野病院

※外部機関に個人を識別できる情報が提供されることはありません

[研究の目的] ジストニアの患者さんにおける脳内ドーパミンD1およびD2受容体および脳構造変化と臨床症状・機能との関連を調べることで、疾患およびその臨床症状発現の病態基盤を探索することを目的としています。

[研究の方法・データの利用方法]

●対象となる方々

下記の研究にて^[11C]SCH23390、^[11C]racloprideのPET検査を行われた方

①22q11.2 欠失症候群における脳内ドーパミンおよび GABA 神経伝達機能と精神症状との関連に関する研究 (量研機構研究計画書番号：17-005)

②^[18F]FMeNER-D2 を用いた抗うつ薬 duloxetine の脳内ノルエピネフリントランスポーター占有率に関する PET 研究 (量研機構研究計画書番号：11-023)

③ マジンドールによるドーパミントランスポーターへの作用に関する研究 (量研機構研究計画書番号：12-003)

④ 抑うつ状態における脳内ドーパミン神経伝達に関する神経画像研究マジンドールによるドーパミントランスポーターへの作用に関する研究 (量研機構研究計画書番号：12-008)

●利用する情報及び利用方法

年齢、性別、今までの病気の経過、診察所見

検査所見 (心理検査結果、採血結果、MRI画像、^[11C]SCH23390画像、^[11C]raclopride画像)

※別途実施済みの研究データを使用しますので、新たな質問や検査の必要はありません。

[個人情報の取り扱い]

お名前や個人情報がでることは一切ありません。利用する情報からは個人を直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も研究対象者の方を特定できる個人情報は利用しません。(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。)

この研究にご自分のデータを使ってほしくない方（又は代理人の方）は、いつでも申し出いただけますが、できるだけ下記の期間に[問い合わせ先：窓口]にお申し出くださるようお願い致します。データ解析に使用して個人情報と切り離されてしまった情報は取り除けないことがあります、個人情報が表に出ることは一切ありません。

- 2019年12月31日までに検査を受けた方：2020年6月30日まで

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

量研機構量子医学・医療部門QST病院臨床研究支援室

電話；043-206-4713 平日： 9：00 ～ 17：00